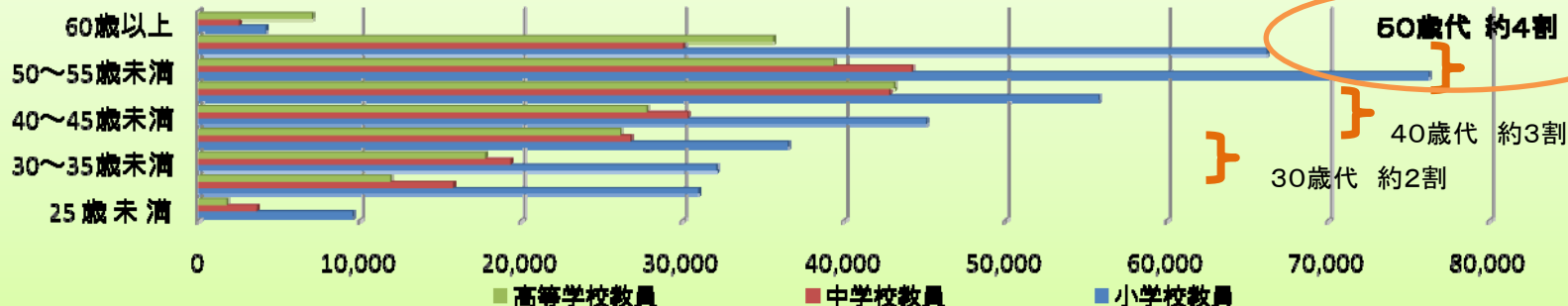


教職員等中央研修の見直し

現状の課題等

- ① 社会の急激な変化、子どもを取り巻く環境の変化、保護者からの要望などの多様化などにより、学校運営上の課題がこれまで以上に増加。
- ② 小・中・高等学校の教員の年齢構成をみると、今後10年間には、現在、約4割を占める50代の教員が入れ替わる。このため、現在の中堅教員に学校運営をしっかりと取組むことができるリーダーを育成することが急務。



次代を担うリーダーの育成に重点化

第三期末(平成22年度)

校長・教頭等
研修
受講定員 1,000人
研修日数 15日(11日)
研修回数 7回

中堅教員研修
受講定員 1,000人
研修日数 25日(19日)
研修回数 5回

合 計 受講定員 2,000人
(受講者数: 21年度 1,593人)

第 四 期(平成23年度)

校長マネジメント
研修

受講定員 100人
研修日数 5日(5日)
研修回数 2回

学校経営に特化。
研修日数は5日間に短縮、研修回
数は2回に限定。

副校長・教頭等
研修

受講定員 600人
研修日数 17日(13日)
研修回数 5回

幅広くリーダーとしての素養を身に
つけさせる。研修日数を2日延長。

中堅教員研修

受講定員 1,100人
研修日数 25日(19日)
研修回数 4回

次代を担うリーダー育成の観点か
ら、受講定員を増員。受講しやす
い時期に研修期間を設定。

合 計 受講定員 1,800人

総受講定員200人減。

※()内の日数は、研修の実日数を表す